

福島第1原発廃炉と福島復興

— 応用物理学会員として、私たちに何ができるか —

2021年9月10日(金) 10:30 ~ 17:00 (予定)
ハイブリッド開催 (録画配信は行いません)

2011年、東日本大震災の津波により東京電力福島第一原子力発電所(1F)は壊滅的な事故を起こしました。現在は廃炉に向けての作業が進められています。燃料デブリなど高放射化物の処理、そして1Fの廃炉を早期に完了し、真の福島復興を実現させるのは我が国の喫緊な課題ですが、これまでに我々が経験したことのない、極めて困難でも解決しなければならない技術的・課題が、1F廃炉には少なからず存在します。

この問題・課題には、わが国の総力を結集して挑んでいく必要があると考えます。しかし現状それらに主に関わっているのは原子力関連の研究者、技術者がほとんどのように見受けられます。そこには、原子力工学のみならず、応用物理学会で扱う専門分野における知見と経験と技術、そしてその人材・知能が生かせるものが多々あると思われます。

本シンポジウムでは、会員各位において「どのように1F廃炉、そして福島のスリットやかな復旧と復興、さらに安全・安心な社会の確立に寄与できるか」を考える場と研究の種を提供したいと考えています。加えて、文科省殿より、その研究を支援する枠組みについてご紹介頂きます。原子力発電に賛成/反対という立場的な見かたでなく、国民にとってのこの困難かつ喫緊の課題を解決するのにどのように寄与できるか、という視点でご参加頂ければ幸いです。

皆さまのご参加・ご議論と、上記内容に資するであろうとお考えの一般講演の投稿をお待ちしております。

招待講演者 / 講演題目 (敬称略, 仮題)

鈴木 優香 (文部科学省) 文科省英知事業, 原子力システム事業の概要と現状

奥住 直明 (廃炉機構) 福島第一原子力発電所の廃炉計画

逢坂 正彦 (原子力機構) 福島第一原発廃炉作業の現状と課題

大島 武 (量研機構) 耐放射線性炭化ケイ素半導体デバイスの開発

奥野 泰希 (東北大) 化合物太陽電池を用いた過酷放射線環境下線量計デバイスの開発

